



追悼・宋和映先生

2006年9月16日、宋和映（ソンファヨン）先生が亡くなられました。チュムパンの会の指導をして下さった先生の思い出を趙寿玉さんに聞いてみました。

— さっそくですが宋和映先生のことを聞かせて下さい。
 寿玉— はい。宋和映先生は、私にとって先生でもあります。李梅芳（イメバン）先生の元での、兄弟子でもありました。
 — それでは、とても古くからのお知り合いだったのですか。
 寿玉— 初めてお目にかかったのは、確か、84年でしたか、以前韓国で習っていた先生に紹介されました。宋和映先生は、コムシン履きで、短パンにランニングのようなお姿でした。宋先生はお

仕えていた金壽岳先生の公演のお手伝いで、あちこち荷物運んだり、てきぱきと動いていました。
 — それは、裏方さんとはいえ、当時ではとても斬新なお姿だったのではありませんか？
 寿玉— ええ、それでとても印象に残っていたのです。先生は亡くなる直前まで李梅芳先生にも永くお仕えしましたし、伝統を大切にしながら、常に独自の世界を求めていらっしゃいました。いつもポジティブに、どんなことでも「それでは次にどうするか？」と考えていらっしゃいました。

— かなり独創的な踊りをなさる方だったのですか？
 寿玉— 先生は芸ごとの環境の中でも育ったこともあり、宮中舞踊も民俗舞踊もこなす、まさしく畚寸（チュムクン）踊りの職人（職人）と言わなければならない。ご自分では無識하다（ムシカダ）知識がない、学がないとおっしゃっていましたが、詩心もあり、衣装のデザインもご自分でなさるような博識な方でした。先生の踊りは一瞬一瞬が絵になるような、スケールが大きくて端正な踊りでしたので、ポスターなどにもよく写真が使われました。

— それは！ 先んうかがった初対面のお姿とは対照的ですね。
 寿玉— ええ、先生は기운（キウン）氣の力）が上がる朝にお稽古の時間を入れるのがお好きでした。明け方から起きてご自分の練習をし、お弟子さんたちが来るころにはいつもきちんと待っていていらっしゃいました。「教える人は弟子や生徒に会う前に、きちんと身支度を整えていなくてはならない」とおっしゃっていました。…思い出すと耳が痛いですが、ご自分を鍛錬する時間を大切に過ごしていた方なのです。

— 「練習では鬼」と自らおっしゃっていたようにご自分を磨くための研究に研究を重ねた方です。李梅芳先生のところにはいらつしゃったときには、こんなエピソードがあります。玄琴の李世煥（イセファン）先生がある夜、同じ建物の下の階で知人たちと酒を酌み交わし、夜も更けてきたので上階の李梅芳先生に挨拶をして帰宅しようと寄って見たら、宋和映先生が一人で黙々と練習をなさっていた様子です。そんな先生は、舞台では「遊んでいる」といっている方と比べて、方々をさっていました。もちろん、気の遠くなる



ような練習の上での「遊び」です。先生の踊りには、どこに行くのかわからないような危うさや軽みと、韓国舞踊のしっぺりしたよさや美しさがありません。特に申선발（ボンソナル）会報3号参照）の踏み美しさは絶品でした。見る人の心を捉えていたと思います。
 — 先生とは、確か8月の神宮寺で一緒に踊りましたね。
 寿玉— はい、なんだかあまりに突然で。今思うと、遠慮せずにもっともっと教わっておきたいことがたくさんありました。先生がお痩せになって行くのには気が付いていましたが「枯れ舞を踊れるようになりたくてね。ダイエットしているんだ」とおっしゃるのを信じていたので。8月の神宮寺の境内で、静かにお掛けになったり、横になられたりしながら「ああ、天国にいるみたいだ」とおっしゃった姿が偲ばれます。
 チュムパンの会一同、先生のご冥福を心よりお祈り致します。

カムサハムニダ

—心に感謝の歌声を

新宿百人町、大久保駅の近くにある、李明姫（イミョンヒ）さんのスタジオを訪ねると「こんにちは、久しぶりですね」といつものように明るい笑顔で迎えてくださいました。早速インタビューを開始しました。

なぜ演奏家になろうと思ったのですか？

私が生まれた家は、比較的、経済的にも恵まれた家庭でしたので、母の手に引かれて、5歳ごろから踊りを習い始めました。小さなときから、人間文化財になれたら素敵だなと思っていました。小学生のころは、サムルを習ったり、チャンゴをやったりもしました。中学で芸術学校に通っていたころは、学校で選ばれたほど、チャンゴもたたけたのです。でも、本当に演奏家になりたいという気持ちになったのは、芸術学校を卒業し、数年のスランプの後にカヤグム併唱（ピョンチャン）第23号人間文化財の卍卍（パククイヒ）先生に出会ったからです。



なぜカヤグムだったのでしょうか？

カヤグムを先生について習い始めたのは、芸術学校に入る少し前のことです。母が、人間文化財のソング（ソング）先生のところに入れて行ってくれたのです。いろいろな楽器を習いましたが、カヤグムという楽器は女性の声や感性とよく合っているように私には感じられます。雨が降っている時は悲しげに、晴れている時はほがらかに、時にまるでヒステリックに感じられる音色を奏でてくれるカヤグムは女性である自分と一致して、カヤグムに触れているととても落ち着きます。

やめようと思った時はありますか？

芸術学校を卒業してから、一時、全てが嫌になって、2、3年何もなかった時期がありました。私なりの自分探しのときだったのかもしれませんが。そんなある日、テレビで、芸術学校時代の仲間が活躍しているのが目に入りました。：私はここで何をしているのだろうか。居ても立ってもいらなくなる。居ても立ってもいらなくなる。先生をお訪ねしました。そこで、お稽古をしていく先輩方の姿を見ていて、ここが私の居るべきところだ、と思いました。それからは、朝から晩まで先生のお稽古場にいることも度々ありました。私の場合、

やめた渴きが自分への鞭になったのです。

やっていて良かったと思った時はどんなときでしょうか？

日本に来て、自分は教えるために生まれてきたと確信しています。韓国では、教えていけば、当たり前にならなくなっていく。ところが、ここ、日本で教えるようになって、歌うための言葉にしても、何にしても、一つ一つ教えていかななくてはならないことに気がついて、その戸惑いが私の勉強になりました。そういう風にして教えた生徒さん一人一人が育っていくのを見ていくと、本当にこの仕事をしていてよかったと思います。これからも、多くの生徒さんたちと舞台に立つ機会を作って行きたいし、もっと小さな子供たちにも教えたい。これからの私達が活躍していく足場作りをしていきたい。私だけでは終わらない見果てぬ夢があるから、お弟子さんたちも、子供たちも育てて行きたいのです。夢に向かっていく自分が幸せです。そのためにはいろいろなことを学んで生きたい。私は学びに対しては貪欲なのです。

寿玉さんとの競演の感想を聞かせて下さい。

日本に来てから、私が出会った人々は、私の財産です。いろいろな仕事や出会いのチャンスを与えてくださり、私をいつも心から応援してくださった。

趙寿玉さんとの出会いも、私の日本での人生に大きな影響を与えてくださいました。舞台の競演などで、出会うたびに、いつも新しい宿題を与えられるよ

うな関係です。謙虚で気配りを大切になさる方ですが『明姫さん、ごめん、これ出来るかなあ』と言って下さる一言が、私に努力目標や頑張りを与えてくれるのです。お互いに、友人であり、仲間であり、よき同伴者であると思っています。どんなことでもその場で言い合えるような信頼関係を大切にしていきたいです。周りの方から、お二人を見ていると斗気（フアギエエ）和気（フアギエエ）とされているといわれるのが、とても嬉しいです。

今後の抱負を聞かせて下さい。

生徒さんたちも、私たちも、みんなが少しずつ、どこか欠けたもの同士が集まりですが、お互いに理解し合い譲り合って、それぞれが積み上げてきたものを壊さず、しっかりと信頼の土台を築いて、もっと仲良くよい仕事をしていきたいと思っています。もちろん、大変なことでもたくさんあります。ですが、ここまで立派に育ててくれた母と、いつも私を支え見守ってくれている日本の家族に、少しでも喜んでいただけられるように、そして教えてくださった先生方の顔に、泥を塗らないように、私はこれからも努力を積み重ねて行きたいと思えます。そのようにして、皆さんへの感謝の気持ちを表し続けて行きたいと思うからです。

とっておきの話し

卍卍（パククイヒ）先生の所で猛練習をしていたころのことです。母が、占いをしてもらいました。ご存知のように韓国の女性は占いが好きです。母は『お前は、結婚して、遠いところ

に海を渡っていくといわれたよ』といえます。私はそんなことはありえないと思っていました。そうしたある日、日本に公演のために来た私は、声楽とピアノをしていた主人に出会いました。お互いに音楽を愛する者同士、お付き合いが始まりました。お付き合いをしてだいぶ経つたころ、公演のために日本に来ていた私が韓国に帰ろうとするのと、突然に主人が私に指輪を渡すのです。悩みました。指輪を受け取ることは日本に來なくてはならないことだと思ったからです。貰うにも貰えないし、彼を愛していましたから、お断りすることもできません。『これは結婚するとき』といったのですが、『いや、母からも、指にはめて帰すようにと言われたので、受け取



韓国舞踊との再会

キム
ミン
ジ
金
玫

私は在日韓国人二世として生を受けてきました。民族意識の強い両親のもと、日本で生活しながらも幼い頃からその運命をあるがまま受け止め、生来の天邪鬼さからか漠然と誇りのようなものさえ感じていたように思います。韓国人であることは私にとってあまりに自然なことだったので、それでも、成長するにつれ出会う人々が多くなり活動範囲が社会的に広がるにつれて、私のこの自信のようなものは揺らぎ始めました。私の中にはたして韓国人の民族性は存在するの。韓国で生活した原体験も記憶もなく、なにを抛り所

にしたらよいのか。本名を声高に名乗れば名乗るほど韓国のことを何も知らない自分を思い知らされ心もとなくなるのです。日本語の話せない祖母と暮らし小学校は民族学校に通っていましたが母国語はある程度できました。「言葉を理解する」ということは人にとって大きな精神的支柱となるものです。でもそれ以上の何かを求めている私が出会ったのがソウルで観た韓国舞踊「サルプリ」でした。内なる「恨」を祓うしなやかなフリ、飾りのないそれでいて洗練された白い衣装とひつつめ髪は韓国の味「モツ」そのもので



した。私はどうしてもこの感性を自分の中に取り込みたくなり、韓国舞踊を習い始めました。私だけでなく在日にとって母国の舞踊を学ぶということはそういった切実な意味もあると思うのです。韓国のリズムを体で感じ、見よう見真似ながら韓国の美を表現することは、私に確かに韓国人としてのアイデンティティを実感させてくれました。その後しばらく仕事や結婚、出産と子育て等でやむなく中断していましたが、今やつと韓国舞踊に再会することができました。しかも、私が過去に深く感動した韓国舞踊の美そのままのイメージを純粹にそして奥深く表現され、今度習うとしたらこの方しかいないと思っていた趙寿玉先生との出会いに恵まれたのです。

この再会が私に今度は何を与えてくれるのだろうか、秘かに期待しつつ今日もレッスンス場へ足を運びます。

アイシンブルコリアン
キャッツのお店がオープン
しました

目黒線 奥沢駅前
ファミリーストップ一階
十時～二十時 日曜定休
キムチ・韓国惣菜・健康
茶・韓国グッズ・アイス
クリーム
おいしいよ！

活動記録 & 予定

- ◎ 8月5日 神宮寺(松本) アバロホールにて「命の伝承」原爆忌公演。
- ◎ 6月8日 檀家の方々を対象とした法要の舞が行われました。宋和映先生、趙寿玉
- ◎ 9月15日 「ウリ稲門会納涼祭公演」六本木国際会館にて閑良舞、ソゴチュム(小鼓舞)
- ◎ 10月1日 「日韓伝統芸能による 日韓の和、新たな出会い」『羽衣伝説』がセシオン杉並ホールにて公演されました。和の音曲で韓舞を踊る、新しい試みでした。
- ◎ 10月1日 「代々木病院 健康まつり」舞踊・模擬店に生徒達が参加
- ◎ 10月29日 山口県立長府高校同窓会 姫松会 銀座 Sum-mi 高松にて
- ◎ 11月3日 宋和映先生の公演DVD鑑賞会
- ◎ 11月14日～21日 榎町地域センター 午後三時半より 「三年時」沖繩県下の小学校、全七ヶ所にて。詳細は現代座までお問い合わせください。
- ◎ 12月16日 チュムパンの会「おさらい会」午後二時より 若松地域センター 3階ホール
- ◎ 2007年3月吉日 「ひびけアジアの音」奥多摩にて